会　　議　　録

会　　議　　名	令和３年度第１回小金井市立はけの森美術館運営協議会		
事　　務　　局	市民部　コミュニティ文化課（はけの森美術館）		
開　催　日　時	令和３年４月２７日（火）１８時３０分～１９時４０分		
開　催　場　所	市立はけの森美術館　多目的講義室		
出　席　委　員	鉄矢悦朗会長 山村仁志委員 原田隆司委員 坂井文枝委員 加藤治紀委員 河田京子委員		
欠　席　委　員	なし		
事　務　局　員	コミュニティ文化課文化推進係　　吉川、岡本 同　　はけの森美術館学芸員　中村、河上、西尾		
傍　聴　の　可　否	可		
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由		傍聴者数	０人
会　議　次　第	１　展覧会「画家の仕事と手遊び―中村研一、はけの日々―」の観覧 ２　人事について ３　事業実施報告等 ４　令和３年度の事業予定と予算について ５　その他		
会　議　結　果	別紙のとおり		
会　議　要　旨	別紙のとおり		
提　出　資　料	１ 開催した展覧会・ワークショップ等及び今後の予定 ２ 令和３年度年間スケジュール ３ 令和３年度予算状況について		

令和３年度　第１回小金井市立はけの森美術館運営協議会

令和３年４月２７日（火）

【山村委員】　　皆さん、こんばんは。

時間も少し過ぎていますので、令和３年度第１回小金井市立はけの森美術館運営協議会を始めたいと思います。

いずれ鉄矢会長、それから坂井委員もいらっしゃるということなので、それまで代行して司会をいたします。

次第の項目を見ていただいて、１番の展覧会「画家の仕事と手遊びー中村研一、はけの日々ー」の観覧につきましては、順次、私もそうですけれども、見ていただいたと思います。

本日は緊急事態宣言中ということもありますので、なるべく速やかに、１９時半頃までには運営協議会を終了させたいと思います。

それでは、本日の配付資料の確認を事務局のほうでお願いいたします。

【事務局】　　では、配付資料について説明いたします。

まず、皆さん、机の上にお配りした次第と資料１番の開催中の展覧会、あと、教育普及事業が掲載されている資料１というものと、資料２で、はけの森美術館運営協議会の今年度の展覧会の予定の資料です。資料３つ目としましては、今年度の予算の資料です。それぞれ別途、展覧会のチラシと芸文計画の冊子を机の上に置いてあります。もし資料がない方がいらっしゃれば教えていただきたいと思いますけれども、皆さんありますか。あと、年報もお配りしております。

【山村委員】　　よろしいですか。

【事務局】　　大丈夫そうです。

【山村委員】　　それでは、繰り返します。クリップ留めの資料１、資料２、資料３、それから、年報、それから、第２次小金井市芸術文化振興計画、それから、チラシ、それから、運営協議会の前回の会議録もあります。

【事務局】　　そうです、会議録もお配りしています。

【山村委員】　　では、次第の２、人事について。事務局から委員の人事異動の報告をお願いいたします。

【事務局】　　それでは、４月１日付けの人事異動を報告させていただきます。

前任の鈴木コミュニティ文化課長が異動になりまして、後任として、私、河田京子がコミュニティ文化課長兼美術館の館長ということで着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

また、指導室長の浜田委員が異動になりまして、後任に指導室長として、加藤治紀委員が着任しました。

【加藤委員】　　よろしくお願いいたします。

【山村委員】　　よろしくお願いします。

それでは、新年度ということもございますので、委員の皆様もお一人ずつ自己紹介をお願いします。

では、私から順番に時計回りでお願いします。

山村です。会長代行ということで、鉄矢委員が、会長がいらっしゃるまで務めさせていただきたいと思います。

私は、今、上野の東京都美術館の学芸担当課長をしておりまして、６年前に上野のほうに職を替えたというか、移ったのですが、それまでは府中市美術館、ここからバスで１０分、１５分ぐらいのところに２３年間勤めておりまして、そこで学芸係長、副館長までやって、それから上野のほうに行ったという次第もあって、小金井市のほうは職場の関係で親しんでいたということもあって、残念ながら亡くなられた薩摩顧問とは親しかったものですから、こちらのほうに縁があって委員をさせていただいております。よろしくお願いいたします。

では、原田委員お願いします。

【原田委員】　　原田と申します。よろしくお願いします。

昨年度より公募委員の１人として参加させていただいています。

会社員を辞めて７年になります。無職の年金生活者でありまして、趣味の１つが美術館巡りということで、利用者の立場で意見を述べたりすることができればと思って参加しております。どうぞよろしくお願いいたします。

【山村委員】　　では、河田館長はよろしいですか。

【河田館長】　　では、一言。

改めまして、河田と申します。

私は市役所のほうに入ってからはもう長いですが、教育委員会にいたときが長くて、３

月まで教育委員会のほうで仕事をさせていただきました。今回、コミュニティ文化課長、はけの森美術館長ということで、また畑は違うのですが、美術とかということとか芸術文化というところで、市役所の中でも珍しいようなわくわくする部分がすごくあるお仕事をさせていただくことになりまして、本当に楽しくさせていただいております。よろしくお願いいたします。

【加藤委員】　　小金井市教育委員会指導室長の加藤と申します。

私は前任はお隣の小平市の第十一小学校というところの校長をしておりました。それで、この４月に小金井市の教育委員会に着任したというところでございます。

小平から来たということではありますが、その以前には小金井の学校にも勤務をしていたことがありまして、すぐ近くの前原小学校に６年間、あとは第二小学校のほうで２年間勤務をしていたということで、こちらにも３年生が来ます。一度、子供たちと一緒に来たことがあります。そして、それ以来の２回目のここの来館になるかというところでございます。

例年小学生がお世話になっているかと思いますので、そういったところで加わらせていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

【山村委員】　　鉄矢会長と坂井委員がいらしたら、またその続きで自己紹介していただきます。

それでは、次に、事務局の人事について事務局から報告をお願いいたします。

【河田館長】　　事務局の人事につきましては、４月１日より新しく河上と西尾の２名の学芸員を採用いたしました。新年度でありますので、今から事務局の全員の自己紹介をさせていただきたいと思います。

【河上学芸員】　　４月から着任いたしました学芸員の河上と申します。よろしくお願いいたします。

私は２００７年から美術の業界でお仕事をさせていただいておりますが、専門が近代とは離れていまして、イスラム現代美術というちょっと特殊なものです。現代美術の現場でずっと仕事をしておりまして、最初はキュレーション・企画会社の南條事務所、六本木の森美術館、フリーランスなどを経て現在に至ります。実際のところ、家族の仕事の都合で５年ほど仕事から離れており、この４月から、かなり久しぶりの職場復帰というような形です。また全く違う畑からやってきたというところもあって、本当に一から勉強させていただければと思っております。今度ともどうぞよろしくお願いいたします。

【西尾学芸員】　　私も４月から着任しました西尾真名と申します。よろしくお願いいたします。

こちらに参りますまでは２０１７年から３年間ほど茨城県の笠間日動美術館のほうで正規の学芸員を務めさせていただいておりました。

私自身が岸田劉生を中心とした近代美術を専門としておりましたので、年間に２本から３本程度の企画を担当させていただくような形で学芸を務めておりました。

その後、去年の１０月から半年間ほど東京の上野の書道博物館のほうに移りまして、今回、はけの森美術館さんのほうでやはり自分の専門性とより合う美術館であるということから、こちらのほうに挑戦させていただきたく応募させていただいた次第です。

自分の専門性と近いというところを生かしつつ、あまり月並みにならないような展覧会を提供できればというふうに今は考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

【中村学芸員】　　学芸員の中村でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

私は昨年度まで約５年間、こちらの学芸員として勤めさせていただきました。今年から、そういった意味では変則的に時給制の職員という形で改めて勤めさせていただくことになりました。

引き続き学芸業務に当たらせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】　　コミュニティ文化課の岡本と申します。

私はコミュニティ文化課に所属して今、４年目となります。主に事務局の運営を担当しておりまして、皆さんに今回も運協の開催の連絡をさせていただきました。今後も運協についての事務などを私がやりますので、よろしくお願いします。

あと、もう１名、吉川も事務局を担当していまして、後ほどこちらに来ます。

では、事務局の紹介は以上です。よろしくお願いします。

【山村委員】　　ありがとうございました。

【河田館長】　　すみません。学芸顧問の薩摩先生なんですが、昨年の８月に逝去されまして、今、適任の後任の方を探しておりますが、まだ決定していない状況になります。

新しい学芸顧問の先生が決まりましたら、また皆さんにお伝えしたいと思っております。

【山村委員】　　ありがとうございます。

その辺期待しています。

それでは、次第の３番、事業実施報告等ですが、これも事務局からお願いいたします。

【中村学芸員】　　では、こちらは私のほうからまず報告させていただきます。

資料の１を御覧ください。

まず、既に展覧会の観覧に関しましては、こちらの会議開始の前に皆様に御覧いただいたかと思いますので、こちらで新たに説明することは省略させていただきます。ただいま展覧会の御覧いただいたものとしましては、「画家の仕事と手遊び－中村研一、はけの日々－」と題しました所蔵作品展を開催しておりました。

ここに関しましては、資料１のほうにも記載がございますように、本来ならば今、会期中であるべきところなんですが、本来の会期というのが３月２７日から５月９日、ゴールデンウィークを過ぎた辺りまでを予定していたところでした。

ただ、皆様既に御存じのように、コロナウイルス感染拡大防止のために緊急事態宣言が４月２５日に発出されました。これに伴いまして、東京都のほうから美術館・博物館に関しましても休業の要請というのが出ておりますので、４月２５日にこちらの展覧会の会期を切り上げる形で展覧会の中止が決定しております。

展覧会の会期を切上げて臨時休館という状態になっておりますので、４月２４日までの状況を報告させていただくという形に変更いたします。

こちらの会期ですけれども、先ほど御案内したように少し短縮いたしまして、４月２４日までの時点ということで、合計で４６１人の入館者数がございました。

本来であれば、この後、無料の開館日が５月９日、最終日に予定されていたりですとか、それから鑑賞教室などが予定されていたりですとか、それから何よりゴールデンウィークがありますので、この入館者数に関しては、従来であれば、後半かなり増えていくというところではあったんですけれども、ただ今般のこの状況を鑑みましては、こんな形で開館していくというのは恐らく困難であろうということで、休館という形になりました。

前半期のところ、１か月弱というところで開館日が短縮された状態ですので、やはり入館者数としては、そういった意味では少し厳しい状況になったかというふうに見ております。

この後、これ以上入館者数は、基本的には４月２４日で確定した状態になるわけですけれども、ただ鑑賞教室に関しましては、まだちょっと確定していない状況のところもありますので、ここに関しましては後ほど報告させていただきます。

続けて、今後開催予定の展覧会と教育普及事業について報告させていただきます。

まず、次の展覧会に関しましては、こちらは西尾のほうから報告させていただきます。

【西尾学芸員】　資料の１の２の（１）の展覧会のところなんですけれども、次回展は、

私のほうで担当させていただきまして、「画家のメタモルフォーゼー中村研一、その作風の変貌ー」というふうなタイトルをつけさせていただき、私はまだ中村研一については勉強を始めたばかりではあるのですけれども、その中で感じた中村の作品の豊かさというものを伝えるために、その画業の大きな変貌を、静物画、人物画、風景画と分けまして、その初期作品と後期作品を並べて展示することでこんなにも変わったものというもの、その様式の変化というものを示していけたらということを目的とした展覧会となっております。

こちらも、もし今後、現状が、緊急事態宣言が停止しまして、通常どおり展覧会を開催できるという運びになりましたら、休館日は、今年の「画家の仕事と手遊び」と同様、月曜・火曜を休館としまして、開館時間も短縮の１１時から午後４時までという形で開催できればというふうに考えております。

教育普及事業としまして、子供絵画鑑賞教室に関しましても、今のところはこの展覧会が無事開催できれば行う予定でおります。

以上です。

【中村学芸員】　　２番目の展覧会の予定に関しましては、改めて中村のほうから説明させていただきます。

２番目の展覧会のほうはこちら秋の展示の予定になります。秋の展示は、１年ほど企画展という形で外部から作品を借用することができずにいたんですけれども、秋の展示で久しぶりに作品を外部から借り、企画展として考えております。

「藤島武二１００枚のスケッチ＋中村研一５０枚のスケッチ」という形で仮題をつけておりますけれども、大きなコンセプトとしましては、公益財団法人大川美術館、群馬県の桐生にある私立の美術館ですけれども、こちらのほうで藤島武二の１００枚にも及ぶスケッチを所蔵されているということで、この１００枚のスケッチを一括して借用するという展示になります。

これに対して、当館でも中村研一のスケッチ作品は量的にはかなりたくさんのものがございますので、これを併せて展示することで、藤島武二と中村研一という東京美術学校の中では師弟関係のあった２人の作品をそれぞれスケッチという、ややフォーマルなものからは外れるところにある、その分多様な面が見えてくるような作品として見ていこうという、そういう展示のテーマとして考えております。

ただ、こちらの展示も、やはりコロナの影響というのは完全に脱却していないだろうと思われますので、現状のところでは開館時間・休館日ともに短縮の状態で考えております。

併せて、関連事業につきましても、鑑賞教室のほうについては、この後説明がありますように、一旦仮のスケジュールを組んでありますけれども、状況によっては特に秋から冬にかけての時期ですから、コロナの状況は厳しくなるという可能性も少し織り込んでおります。

併せて、教育普及事業で、そのほかワークショップですとか、ギャラリートークのようなイベントというものに関しましては、この段階においてもまだ見通しが立たない、やはり密集危険性を避けるという意味ではやらないほうがいいだろうということで、現状では関連事業などというのも未定の状態、このままいけば展示だけをすることを最優先に上げるという方向で考えております。

こちら、２番目の展示に関しましては以上になります。

続けて、教育普及事業の今後の予定について報告をさせていただきます。

【河上学芸員】　　では、河上から、教育普及事業、資料１、（２）番、教育普及事業について御報告申し上げます。

こちらの教育普及事業に関しましては、①番、鑑賞教室の部分ですけれども、小金井市内９校の４年生を対象にした鑑賞教室というものを予定しておりまして、今現在、ここにある日程で予定をしております。

開催中であるべき展覧会、今、１階・２階で御覧いただいた「画家の仕事、手遊び」の展覧会に関しましては、５月７日、小金井市立南小学校の４年生が来館して鑑賞教室を行う予定でしたが、こうした展覧会中止で臨時休館という状況のため、ただいま調整中というようなところでございます。

その後の小学校の鑑賞教室に関しましても、コロナの感染拡大の状況によってはどうなるか分かりませんけれども、展覧会の開催に合わせて、全て鑑賞教室のほうも行う予定でございます。

また、鑑賞教室に伴う事前授業として、これまで出前授業のような形で事前授業を行ってきた小学校が何校かございますが、今年はこういった状況の中で学芸員が出前授業を行うということが難しい可能性が高いという大前提で、基本的には、事前授業は出前授業ではなく、小学校の美術担当の先生、教官の方と一緒に話合いをしながら内容を決めていくような、そういった形で、進めていく予定でおります。

鑑賞教室については、以上です。

【山村委員】　　説明が終わりました。御意見・御質問等ありましたらお願いします。

【鉄矢会長】　　遅れて来て申し訳ないです。もし御説明済みだったらすいませんが、出前授業の代わりに今時のリモート的出前授業はできないのでしょうか。

【河上学芸員】　　それは市内公立の学校に関しては、ここでは、恐らくそういったオンラインで対応できるようなＰＣ環境等が全く整っていないような状況かと思って、そうした話は一切今のところ議題に上がっていないような状況です。

なので、先日も先生にこちらにお越しいただいて、学芸員と一緒に協議をして、事前授業はどういったものができるかというような相談をさせていただくというような形で進めようというふうに思っておりますが、オンラインというのは、今のところ、まだちょっと環境的に難しいのではなかろうかというふうに考えております。

【鉄矢会長】　　そうですか。

ちょっと美術館から離れてしまうんですけれど、いわゆる小中学校の、おっしゃったＰＣ環境の整備というのは、仕事としてはどこの管轄なんですか。

【加藤委員】　　教育委員会です。

私、お話ししてよろしいですか。

どういうやり取りが、そこまでにあったのか分からないんですが、今現状としては、１人１台のＰＣ端末が配備されております。

【鉄矢会長】　　じゃあ、できるじゃないですか。

【加藤委員】　　ですので、多分４月当初にいろいろ学年が変わって、その準備というんでしょうか、ロビーとかいろいろな方法をというのがあったりとか、そういうことがあるので、開始時期によっては難しいとか、年度当初は難しいとか、そういう話があったかもしれませんけれども、基本的には小学校で全員端末を持っているという状況ではありますので。

【河上学芸員】　　その端末はインターネットを使えるような端末がなんですか。

【加藤委員】　　そうです。インターネットで。そもそもオンラインを想定しての、コロナ禍でということでの。

【鉄矢会長】　　では、広がるじゃないですか。

【河上学芸員】　　すみません。全然存じ上げなくて、失礼いたしました。

【加藤委員】　　やり方等がいろいろあるかとは思いますけれども、もう一度学校とも調整というか、状況を確認していただけるといいのかな。

【鉄矢会長】　　そうですよね。

【中村学芸員】　　すみません。こちらから補足させていただきますと、そもそもこういった形で、教材をこちらで提供する形で先生にやってもらうという方向性が決定したというのが、少し以前の時期に決まっているんです。ちょうど緊急事態宣言１回目の頃で、なかなか外に出るのも難しいという頃に決まったんですけれども、最終的に何でこういった形で実施することになったのか、オンラインという可能性ということではなくて、教材を預ける形というになったのかというところを考えてみると、そもそも事前授業って、疑似的に美術館に来ることを体験してもらうということではなくて、美術館に来る前に、美術館にあるものに興味を持ってもらうという目的なので、例えば美術館の中をオンラインの映像で見て、擬似的に体験するとか、バーチャルな形で美術館の中をうろうろするとかということはちょっと違うんです。

実際に手を動かして何かを書いてもらったりとか、何かを見て感じたことを文章にしてもらったりということを重視していったので、やはりそういうことを考えると、オンラインである意味受け身な形で映像を見るということになってしまうよりかは、手を動かしたりとか、何かを書いたりとかできるような教材を作って先生に託して、先生たちにやってもらうというほうが、やはり事前授業の可能性としてはいろいろ試しやすいだろうというところがあって、最終的にそちらの方向になったところがあります。

ただ、１回目の緊急事態宣言のときでしたから、そういった意味では、まだその段階でオンラインの状況というのが整っていませんでしたし、なかなかそういう方向性のことを伸ばしていくというのはやはり難しかったので、一旦その段階においてはやはり今できることということをやれる範囲で考えて、教材を作って先生たちに渡して、先生が教室でやってもらうというのがベストじゃないかというふうになったという経緯がございます。

【鉄矢会長】　　先生方の取り込みも兼ねて。

【中村学芸員】　　その時点でやはり先生たちのほうからも、できるだけ事前授業というものをやっていくという可能性を残したいという要望もありましたので、そういった意味では２月とか３月とか、その辺りでやれることということを考えたときに、双方の合意の下に教材を考えていこうという方向が第１優先になったというところがございます。

【山村委員】　　よろしいですか。

鑑賞授業というのは、当に全校的な授業なので、多分校長がやるとか、学校の先生でも調整が必要と思うので、時間がかかると思います。

では、鉄矢会長もいらっしゃいましたので、すみません、鉄矢会長、説明お願いします。

次第の３番の事業実施報告のことがおおよそ終わったところです。

今日、緊急事態宣言もあるというところで、１９時３０分ぐらいには終わるということになっていますので、それぞれ自己紹介を皆さんしていただいたんですが、鉄矢会長と坂井委員は自己紹介がまだですので、まずそこをしていただいてから４番に入るということなんです。

【鉄矢会長】　　すいません。緊急事態宣言で大学が急遽休校になりまして、いろいろなものが動かなくなって、私の脳みそもとまったようになって。すみません、御迷惑かけました。

東京学芸大学でデザインを教えております鉄矢と申します。

お亡くなりになった薩摩学芸顧問の教え子で、あそこで学芸員資格を取らせていただいた。

今後ともよろしくお願いします。

【坂井委員】　　遅くなりまして失礼いたしました。

今年度から運営委員をさせていただいています市民の坂井と申します。よろしくお願いいたします。

【鉄矢会長】　　ありがとうございます。

では、４番目、令和３年度の事業予定と予算について。事務局から説明をお願いします。

【事務局】　　事業予定は終わりましたので、予算状況について説明させていただきます。

すみません、私も自己紹介をさせてください。

いつもの顔で申し訳ありません。コミュニティ文化課の吉川です。今年度もよろしくお願いいたします。

それでは、予算についてなんですが、今年度、美術館については、毎年予算は足りないというところではございますが、市の予算の中ではかなり配慮していただいているかというふうには思っております。

増減につきましては、その表のとおりです。特徴としましては、運営に要する経費については、会計年度任用職員、今、学芸員が３人で勤務しておりますので、時給制で中村さんのほうの予算が計上されたために、微増なんですけれども、少し増えております。

それから、建物等の維持管理に要する経費なんですけれども、これにつきましては、毎年光熱水費などは定例的に前年度予算より１０％減をされますので、それによりまして少し減額されております。

それから、事業に要する経費なんですが、これが増額されていますのは、茶室のための茶道の道具、茶道具の備品購入費が認められたことと、あと、先ほど事業のほうで説明がありました企画展の、大川美術館の展示作品の借用料が予算化されたためということになります。

実は今まで私立の美術館から借用料を払って作品をお借りしたことがないんですけれども、これが初めてのケースで、どういうふうになりますかということなんですが、なかなか公立館だけから借用ということには、この先難しいこともあるかと思うので、大川美術館のほうも実験的ということなんですが、当館としましても実験的に運営していこうかという形のところで、作品借用料の予算が計上されました。

あと、美術の森緑地の維持管理に要する経費ですが、はけの小径の四つ目垣がぼろぼろだったんですけれども、そちらの補修が終了したために、その部分が減額になりました。

通常の緑地の管理委託料については、ちょっと足りない金額なんですけれども、例年どおりの金額がついております。

あと、助成金の採択状況なんですが、文化庁の助成金については今年度も不採択となりました。一応手は挙げたのですけれども。

あと、ここ４年ばかり、東京都の多様性を活かした観光まちづくり推進支援事業費補助金というものをもらっていたんですけれども、小金井市というか、このはけの森かいわいばかりを対象にしているので。この間、１回目があって、今日が２回目締切りだったんですけれども、データを出した段階ではねられてしまいまして、既に４年間採択されて、この地域に観光客を呼ぶための補助金なので、都の見解としては難しいかというふうに言われておりますので、森の中に中村研一と佐藤秀三の紹介文みたいなものを陶板にして置きたいと思っているのですが、それだけはどうにか新規の事業として認めてもらえないかというふうに今、思っているので、取りあえず３回目の募集ときに、それだけはチャレンジしてみようかと思っております。

文化庁にしろ、東京都にしろ、やはりどうしても同じような事業の内容になってしまいますので、補助金の獲得はなかなか難しいというふうに思っております。

以上です。

【鉄矢会長】　　ありがとうございました。

何か御質問とか御意見がありましたらお願いします。

【山村委員】　　すいません、さっきの事業の予定や来年度の予定も含めて聞かせてくだ

さい。

「画家のメタモルフォーゼ、作風の変貌」のところなんですが、どんなふうに変わったというふうに意味づけされています？

【西尾学芸員】　　まずは、当館所蔵の作品の中で考えられる範囲というふうにはなるんですけれども、まずはフランスに渡る前、岡田三郎助の師事を受けていた東京美術学校時代の影響をまだ引きずっている２０年代の作品から、それから、フランスに渡りまして、また作風の変化が見られる肖像画ですとか、あと、静物画の展示をしまして、そこからまた、２０年代の後半から、当館には所蔵はないんですけれども、京都市美術館の瀬戸内海ですとか、そういった時代の作風に近い肖像画、中村正奇氏の肖像ですとか、そういった、言ってしまえば、中村が世間的に最も評価されていた時代の作風の作品と言えるような肖像画、それで、また作風が変化しまして、最後に、戦後、その戦前の緻密な筆致ですとか、細やかな陰影表現というものから、より大胆で、空間表現、一般的にルネサンスな線遠近法ですとか、あとは、陰影表現、一般的に人々が見て写実的と思うような遠近法や陰影表現から離れた色彩表現を見いだしていく戦後の作品というのを並べると、それをグラデーションで並べていくと見落としがちなことが、時代をスキップして並べていくと、こんなに変わっているんだというところが楽しめるのかというふうに、私自身が特に初期の１９２０年代の岡田三郎助の影響を受けていた時代の絵と、それから、こちらのチラシの表紙に使われている水着というような作品などを見比べて、ああ、こんなに変化をしたんだという驚きがあったものですから、私自身が感じたそういった感動というものをこの展覧会で示せればというふうに考えております。

【山村委員】　　分かりました。

戦前の、どちらかと言えば写実的で暗い色調のものから、戦後の明るい色彩で大胆な筆致のほうに変わったというところをコントラストを見せたいということですね。

ありがとうございます。

それから、あと２つあるんですけれども、２つ目は、大川美術館の借用料はどれぐらいなんですか、大体で結構なんですけれども。

【事務局】　　これは、大体というか、非常に切りのいい数字で、込み込みで５０万です。

【鉄矢会長】　　５０万ぐらい。１００枚は大変だから、そんなもの。１枚５，０００円ということか。

【中村学芸員】　　大川美術館としましては、ぜひここで、はけの森のところでも展示と

して使えるということを見せてもらえないかというところで要望があるようです。

【山村委員】　　分かりました。大川のほうでもそういう方針だということですね。

以上、２つが質問なんですけれども、最後は意見というかなんですけれども、このチラシなんですが、斜めにかけているじゃない。これって普通はやらないですよ。絵というのはその縦横のバランスだとか、その作家によって厳しく計算されてやっているものだから、それも作品の一部。つまりバランスとかそういうもの。

しかもそれを斜めにするというのは、作品を変えていることになるので、デザインとしてもちょっと。私は絶対やってはいけないことの１つかと思っているんです。

最近、よく同じ作品の一部を切り取ったりとか、上に文字をかけたりとかということもあるんです。それはやはり中でも相当議論があって、長らくそれはタブーだったんですが、最近は切り抜きを作ったりとか、文字をかけたりとか、あるいは一部を抜き出したりするということもあることはあるんですが、少なくとも絵の全体を、こういうプロポーションを変えたりすることなどは絵を壊していることになるから、これは私はやめたほうがいいと思います。これは私の意見です。

【中村学芸員】　　正直なところ、今回、チラシのことに関しては、時間的な制約の中でその部分を詰め切れなかったところがあると思います。

今回、やはり私自身、手遊びと仕事という対立する、１つのコントラストを出すような形で展示を組んでいきたいというところが少し先行しておりまして、その先行していく、やりたいことに対して、では、適切な形でイメージをどうつくっていくかという部分について、そういった意味では、ちゃんと詰めるという作業ができていなかったというところは、これはちょっと反省材料としてあります。ありがとうございます。

【山村委員】　　ごめんなさい。ちょっとこだわって申し訳ないけれども、こういう絵を変えちゃう、絵を変なふうにするというのは遊びのウイットのつもりだったということ？

【中村学芸員】　　それから、やはりそこのところに１本縦線が入っているので、縦線を軸にして、対称軸のような形で、対称で真っ二つにしてしまうとバランスがちょっと、配置としてよくないので、少しずらしていますけれども、やはり軸が１つあって、その軸を中心にして広がっていくもの、コントラストという意味で少し斜めになっているというところが。

【山村委員】　　なぜというか、だって、これはそういうふうに意図的にしたんでしょう。

【中村学芸員】　　はい、そうです。

【山村委員】　　だから、遊びとして絵を見せたということ？

【中村学芸員】　　そういうところでの部分を入れたかったんですけれども、ただ、やはりそういう意味では、画像として、では、それで、その遊びの部分を示すとして、斜めにするのが適当なのかというのは、そういった意味では、ちょっと詰め方がよくなかったと思います。甘かったと思います。

【山村委員】　　そうか。

一般の人はどう思います？

【原田委員】　　確かにこれをさっと見たときに、あれ？　ゆがんでいるんじゃないかなという、素朴な感想を持ちましたね。いいのかなという感じですね。

【山村委員】　　僕が古いのかもしれない。

【原田委員】　　これは実際、例えばこの婦人の絵だったら、これは菱形にひしゃげているわけですね。

【山村委員】　　いえ、違います。

【原田委員】　　違うんですか。菱形に切り取ってある。

【山村委員】　　切り取ったんじゃなくて、ゆがめてある。

【原田委員】　　ゆがめたんですね。ですよね。だから、実際に見たのと違うなという印象を持ちました。

【鉄矢会長】　　私もこれはＮＧのほうだと思います。

隣の研究室の生徒なんですけれども、でも、やはりこれは、例えば文学作品に対して、最後、ちょっと手を加えるということはないと思うので、同じようなことだと思います。色味をちょっと変えましたとか。

なので、これは私もＮＧだと思っています。意見です。

ということで、またこれを多分それぞれの学芸員がどういうスタンスでこういうものをちゃんと捉えるかというのが哲学になっていくんだと思うので、貴重な意見だと思います。ありがとうございます。

そのほかございますでしょうか。

維持管理に関する経費はずっと減っていくということは大変なことなんだろうと思うんですけれども、電気代を、たまたまうちの学長が東京電力から東ガスに替えたんです。そうしたら安くなったとか。

東京藝大は電話番号を全部０５０に替えたんです。ある時期。そうやって経費を削減し

ているということをやっているので、まだまだ削減する方法を、ただじっとしているのでなくて、番号なんかを替えると、市全体が替わるかもしれないですね。

【事務局】　　そうですね。それは美術館だけという話にはならないですけれども、電気代に関しましては、毎年入札をしまして、一番安い電気会社に落ちています。

なので、それによってとても落ちて差金が出るときもあるんですけれども、今年は福岡のホープという会社に決まりました。

【鉄矢会長】　　そうですか。分かりました。ありがとうございます。

【事務局】　　ですが、予算計上するときは前年比１０％減となります。

【鉄矢会長】　　それはつらいですよね。努力したのに。

【事務局】　　はい、努力しました。

【鉄矢会長】　　安くなったら、それのまた１０％減の予算となり、首絞められているんだね。

【事務局】　　そうです。課のほうの消耗品費なんてそのうちゼロになるんじゃないか。毎年全部１０％減らされるので。

【鉄矢会長】　　それから、もし先生方、ほかの委員の方で助成金とかがありましたら、ぜひ。

【事務局】　　ぜひよろしくお願いします。

【山村委員】　　それは文化庁で今、やっていますけれどもね。

【事務局】　　これは、市役所が手を挙げられる拠点事業のほうは駄目でした。オリンピックの影響はあまり考えられないのかと思うんですが、やはりフェスティバル的なものにどうしてもお金が行くような、お金を出して見場がいいものになっているのか。

拠点事業ですので、うちの市みたいに小さい自治体が土台をつくっていくというところにお金を出していただきたいというふうに思うんですけれども、なかなかそのようにはならないようでございます。

【山村委員】　　そうですね。

【鉄矢会長】　　そのほかございますでしょうか。時間も２６分になりましたので、５番目のその他に入ってよろしいでしょうか。

５番目、その他、意見交換などあれば、ぜひこの機会に。

【事務局】　　１つだけ説明させていただいていいでしょうか。

【鉄矢会長】　　はい。お願いします。

【事務局】　　第２次小金井市芸術文化振興計画ができましたので、山村先生にもいろいろ御意見いただきまして、なかなかいいものができたかというふうに思います。

中身は具体的ではないという御意見はあるんですけれども、あまり具体的に、この年にこれをやりますというようなことを書きますと発展していかないので、その辺を踏まえて、割合ふわふわっとした書き方になっております。

それで、最後に、これができたということで、公立文化施設、美術館と駅前の交流センターもこの拠点文化施設の拠点の中に入って一緒に連携して事業を行っていきましょうという、この先１０年の計画ですので、その一番最初の第一歩として、今、市内にいろいろな芸術の団体もありますし、個人でやっている方もいらっしゃいますし、こういう美術館に関わっている方とか、文化センター、ホールに関わっている方とかいろいろいらっしゃいますので、７月ぐらいをめどに、１回この計画ができましたというキックオフのフォーラムをしたいというふうに思っております。

ただ、このコロナの状況で、みんなが集まれるようなことができるのかというのがあるんですけれども、それこそウェブと集まる人と両方で対話できるような形を考えておりますので、具体的になりましたら、運営委員会の委員の皆様にも御案内差し上げますので、ぜひ参加していただいて、情報交換をしていただければというふうに思っております。

以上です。

【中村学芸員】　　あと、お手元のほうに年報の第４号が１冊ずつお配りさせていただいたものがあるかと思います。

こちらは２０１７年から２０１９年度までの当館の活動を収録したものになっております。

併せて、薩摩先生が急逝されたということで、これは２０１５年度になりますけれども、串田孫一の展示をしたときに薩摩先生がリーフレットに載せてくださいました文章の採録なども行っておりますので、ぜひ目を通していただければ幸いです。

【山村委員】　　ちょっといいですか。

この文化振興計画の中に何回か出席させていただいて、言ったことの主なことというのはこういう小金井のはけの森美術館とかこういう施設で専門学芸員とかその職員の環境を、待遇も含めてよくしてください、働きやすい環境にしてくださいということを繰り返し言ったんですが、さっきも言ったように、ふわふわっとした表現にしかなっていなくて、２１ページの（４）の公立文化施設のところに、芸術文化に関する専門性の高い知

識や経験に加え、芸術文化をさまざまな政策領域と接続する総合的な知見が求められ、持続的、安定的に専門性を発揮できる環境が必要ですという、かろうじて生きているかという、そんな感じですか。

【事務局】　そうですね。それを私も言いたいんですけれども、なかなか総合的な計画の中にそこだけをそんなに強く言っていく。あと、財政面とかも言いたいですけれども、公の市の計画の中にそこを強く入れていくということはなかなか難しいことだと思いますので、言い続けていくしかないのかというふうには思います。

ここに書いてあるでしょうというのは、一応言えるものが、ちゃんと計画に書いてあったからやらなくちゃとか、計画に書いてあるんだから、そこは考慮してくださいということは言えるかというふうには思っております。

【鉄矢会長】　いやいや、少しは上位計画としてこれがあるので、この後委員になったほかの委員が少し下のいい計画に出た場合に、これのそこを引用できるかどうかが鍵ですよね。

【事務局】　だから、この後推進委員会というものができるんです。そこでやはり駆使していただけないかという。

【鉄矢会長】　そうですよね。ありがとうございます。

そのほかございますでしょうか。

【坂井委員】　１つだけ。

私、今日、遅れるだろうと思ったので、事前に今回の展覧会は拝見していたんですが、金曜日の日中だったんですが、私以外に四、五人いらしていて、意外と入っていらっしゃるんだと思ったんですけれども、一観覧者の感想だと思っていただければ全然いいんですけれども、ストーリー、流れが戦争画から始まったのがちょっとした違和感だった。戦争画の構成比が展示作品中でも結構高かったような気がして、戦争画に関わっている作家だということは知ってはいたので、あれだったんですが、こんなに多く、たくさんあったんだというのを結構重苦しく受け止めながら婦人の絵とかに移っていくという流れが、ちょっと私的には、見た側としてはちょっとした違和感があったかというふうに思ったんです。

もちろん学芸員さん思いもそこにあって、あの流れになっていったんだろうと思うんですけれども。

タイトルからいくと、もうちょっとお気楽な、ライフスタイル的な楽しい感じって思って、ぱっと見たら、えっという感じがちょっとあったので、感想だと思ってください。そ

れで結構なんですけれども、でも、いわゆる戦争画にこれだけたくさん関わっていたんだということが分かったという部分では収穫はありました。

【山村委員】　　私も同意見で、戦争画は結構充実していて、タイトルとしては戦中から戦後へみたいな、そんなイメージだったんですけれども、中村の仕事と手遊びというのとは随分違うイメージ。この辺は何か理由があるんですか。

【中村学芸員】　　やはり戦争画というものを描いたということの意味を改めて問うときに、社会的な認知を得るための仕事だったという部分は中村研一の画業の中で改めて確認していく部分ではないかと思っているんです。

これは中村研一が戦争画を描きたいから描いたという、その「描きたい」というところの部分で、何でそういうふうに思ったのかに関して、画家として自分が社会的に認知されていく中で、やはり戦争画は１つの仕事として彼が見なしていた部分です。恐らく戦争期の中村研一にとっては、その仕事としての部分というのをしっかりと果たすということが１つの社会貢献であると信じていた面もあるんだろうと思います。

【山村委員】　　そうすると、さっきの戦中と戦後のコントラストは、メタモルフォーゼじゃないけれども、戦争中は戦争画を描くことが仕事で、戦後は婦人とか周りの環境を描くことが仕事というふうに言えるわけ？

【中村学芸員】　　そうですね。１つそういう面が多分あるんじゃないかというふうに思っているんです。

それだけで全てを語り尽くすことはできないけれども、中村研一にとって、画家として自分が対価を得る仕事をしているということを考えるときに、では、その仕事の中で生み出されるものが何なのかということについての価値観というのは、恐らく戦前と戦後の間で何らかの変化を起こしていると見ていいんじゃないかと思うんです。

ただ、そのことについて中村研一自身は、戦争が終わってから、自分がなぜ戦争期にあんなにたくさんの戦争の絵を描いたのかということに対して、言葉にして語ろうとはしなかった。しかし行為としては、日展であるとか、あとは光風会の団体展なんかに奥さんの絵をとにかく描いて出すという形で、画家としての仕事の中でありようが変わった。ある意味で無言のアンサーを出していたんじゃないかというところもあるんじゃないかと思います。

【山村委員】　であれば、まさに次の展覧会、画家のメタモルフォーゼ、単に色彩がただ明るくなっただけじゃなくて、画家の意識の中での仕事としてのモチーフがどういうふう

に変わったのかということを、ぜひこれを問いかけてほしいというふうに思います。

【中村学芸員】　　ありがとうございます。

【山村委員】　　直接言っていないかもしれないけれども、作品から読み解けることとか、いろいろあると思うので、ぜひそこをテーマにしてください。何を仕事と思っていたのかという。

【中村学芸員】　　やはりそういった意味では、戦争のモチーフというのは、どうしても展示するときに、やはり重苦しいという部分を演出しやすくなってしまう作品ではあるので、今回、そういった意味では、時代的に中村研一を流れに沿って追いかけていくと、そうしてもああいうふうに、前半が重くなってしまうというところはあったと思います。

次の展示では、その辺り、ある意味スキップして、モチーフを選んでいくということですので、その部分が少し変わって見えてくるのではないかと思います。

【山村委員】　　面白いです。

【鉄矢会長】　　そういうディスカッションが作品の前でいっぱいできると面白いですね。戦争画を描いていた人が、何で戦争が終わったら、奥さんを一生懸命描いていたというだけでも、その中にすごい痛みがあるのか、やはり猫に走るとか、いろいろなふうに考えますよね。

【山村委員】　　たとえ無意識であったとしても、そこに何らかの画家としての姿勢が出るわけですから。

【鉄矢会長】　　そうですよね。

ありがとうございます。

その他といきたいんですけれども、最後の一質問あれば、御意見あれば、なければ、スケジュールのほう、まず校正のほうですね。議事録の校正について説明をお願いします。

【事務局】　　前回の運協の議事録を今、机の上に配付しております。

いつものとおり、私にメールかファクスで校正の連絡をお願いいたします。提出期限は１か月後の５月２７日とさせていただきたいです。

以上です。

【鉄矢会長】　　ありがとうございます。

では、皆様よろしくお願いします。

続いて、次回の会議日程についてここで決めさせていただければと思います。

次回はいつ頃でしたっけ。

【事務局】　　７月の末から８月中旬です。基本的に今、展覧会中は月・火が休館日となっているので、それを外していただいてがいいかと思います。今日はたまたま火曜になってしまったんですけれども、現在コロナの対応なので。

【鉄矢会長】　　分かりました。どうしてもオリンピック期間中だといろいろありそうなので、オリパラの間には開催しないでオリパラの間の８月１１日はどうですか。

【事務局】　　８月１１日１８時半でお願いいたします。

【鉄矢会長】　　ありがとうございます。では、８月１１日、１８時半からということでよろしくお願いします。

ほかに何かありますでしょうか。ほかになければ、以上ではけの森美術館運営協議会を終了いたします。お疲れさまでした。

―― 了 ――